

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 広島県立尾道北高等学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒722-0046

広島県尾道市長江三丁目7番1号

E-mail onomichikita-h@hiroshima-c.ed.jp

Website http://www.onomichikita-h.hiroshima-c.ed.jp

幼児児童生徒数 男子 311 名 女子 275 名 合計 586 名

幼児・児童・生徒の年齢 15 歳～ 18 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、平成 27 年度より広島版「学びの変革」アクション・プランを踏まえ、『尾北イノベーション』を「尾北で学ぶ生徒が、協働して、未来について考え、社会に変革を起こすための手立てを提案・実行できる人材に成長すること」と定め、ESD の観点から地域課題・日本の課題・グローバル課題を捉え、課題発見・解決学習による主体的な学びを通して、習得力・思考力・提案力・実行力・メタ認知の育成を行っている。

それらの目標を実現するための手立てとして、尾北 4 つの学び「主体的な学び」、「協働的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」を柱に、①地域課題の解決プランに係わる活動、②グローバル課題の解決策の提言に係わる学習、③国際文化理解に係わる学習を行った。

① 地域課題の解決プランに係わる活動

課題探究の手法の基礎を学んだ 1 年生が同じ興味・関心をもつ小グループごとに地域課題を設定し、解決策の具体を考えるため現地調査を行い、その

解決策をイノベーションプラン（地域活性化プロジェクト）としてまとめ、ポスターセッション形式で発表することなどを通して、課題発見・課題設定能力の育成を図った。

② グローバル課題の解決策の提言に係わる学習

17にわたるSDGs（持続可能な開発目標）の観点から、グローバル課題を捉え、東京方面への研修旅行において進路希望グループ別に企業、研究所、NPO等を訪問した。現場を実際に体験し、学習のさらなる深化を図っただけでなく、事前学習で考えた課題の解決策の示唆をいただくことで、新たな課題の発見につなげた。主体的な課題解決力を育成する機会となった。

③ 国際文化理解に係わる学習

グローバル社会に対応できる幅広い視野を養い、異文化を尊重し、国際社会で公共性・自己責任及び主体的に行動するコミュニケーション能力を身につけることを目的とし、1年生26名がオーストラリアの姉妹校へ2週間訪問した。オーストラリアの文化・歴史を学び、スポーツ・自然体験、日本文化の紹介を通して、両校の交流を深めた。研修した生徒は全校生徒に英語で報告発表し、体験を通して意思疎通を図る態度と異文化理解の大切さを学んだ。



① の写真（ポスターセッションの1例）



② の写真（外務省訪問）



③ の写真（オーストラリアの姉妹校訪問）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input checked="" type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 習得力, 思考力, 提案力, 実行力, メタ認知)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

Unicef, 国際協力 NGO センター (JANIC) ホームページ
山田剛史・林 創 (2011). 大学生のためのリサーチリテラシー入門—研究のための8つの力 ミネルヴァ書房
宅間紘一 (2014). はじめての論文作成術 日中出版

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

産業社会と人間，総合的な学習の時間及び教科学習において，教科横断的に課題発見・解決学習を推進した。全教科科目を通じて「習得力，思考力，提案力，実行力，メタ認知」の5つの育成すべき資質・能力に基づき，年間指導計画，単元指導計画，学習指導案を作成し，事後に生徒，教員とともに資質・能力のルーブリック評価を行い，改善計画に生かしている。

課題発見・解決学習においては，17にわたるSDGsの目標を観点に，5人程度の小グループで課題を設定し，課題解決策を協働的に創造し，フィールドワークや企業，研究所，大学の研究室等の訪問を通して，専門家から示唆を得て仮説を検証し，新たな課題を発見し探究活動を深める指導を行った。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため，どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

「学びの変革」委員会を設置し，2週間に1回開催し，総合的な学習の時間の計画，進捗管理とともに，課題等について協議し，教科学習については，教科主任会議において企画・運営の詳細について協議している。

「学びの変革」委員会による探究コアスクールとしての研究活動の成果と課題の分析，評価を行っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

内部評価としては，前期・後期ごとに育成すべき資質・能力について生徒に自己評価させ，成果として協働的な学び，情報収集能力が向上している。

外部評価としては，2年生の東京方面の研修旅行において，訪問先から各進路希望別小グループの課題発見・解決策の定性的評価をいただいた。成果としては概ね目標を達成していること，課題としては小グループによって探究の程度に差があることが明らかになった。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

3年生の課題探究発表会を公開授業として全県、近隣中学校、学校評議員、学校関係者評価委員に案内をし、出席者から評価をいただいている。
2年生の研修旅行では報告書を冊子として作成し、研修先に成果を報告している。
これらの発表会や研修旅行、フィールドワーク等の取組を学校のホームページのフォトニュースに随時発信し、地域・保護者からの意見を参考としている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

広島県ユネスコスクール連絡協議会、広島ESDコンソーシアム、広島県ユネスコ連絡協議会主催のESD研修会に参加し、実践レポートを研究集録しネットワークを形成している。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

現在国内外のユネスコスクールとの交流は実現していないが、姉妹校提携のオーストラリアの学校と交流している。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

1年生を40グループに分け、それぞれが地域課題の解決策をイノベーションプランにまとめ、日本政策金融公庫主催の「第5回 高校生ビジネスプラン・グランプリ」に応募し、学校賞を受賞した。

2年生の研修旅行において、生徒が主体的に研修先を探した。新たに開拓した33の企業、研究所、大学の研究室から発見した課題の解決策について示唆をいただいた。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成27年度からスタートした広島版「学びの変革」アクション・プランにより、3年間の実践研究校として探究コアスクールの指定を受け、育成すべき資質・能力に基づく総合的な学習の時間及び教科学習におけるカリキュラム開発を行い、実践と検証を行ってきた。広島県では平成30年度を広島版「学びの変革」の全県展開の年と位置付けている。本校でもこの3年間の取組を平成30年度以降の取組の基礎として、尾北版「学びの変革」を進め、資質・能力の育成を目指した主体的な学びを促す教育活動に取組む予定である。